

漁海況情報

第489号（平成25年3月19日）

発行：山形県水産試験場 〒997-1204 鶴岡市加茂字大崩594
 TEL0235(33)3150 FAX02135(33)0379
 ホームページ：<http://www.pref.yamagata.jp/ou/norinsuisan/147010/>

沿岸25海里定点各層別の平均水温

単位：℃

	表層	50m層	100m層	150m層	200m層	300m層
本年	8.8	9.1	8.7	8.2	7.1	2.6
前年差	-0.2	-0.2	-0.6	-0.9	-0.6	+0.6
平年差	-0.4	-0.4	-0.5	-0.9	+0.7	+0.8
評価	平年並み	平年並み	やや低い	平年並み	平年並み	かなり高い
(前月評価)	(平年並み)	(平年並み)	(平年並み)	(やや高い)	(平年並み)	(平年並み)

評価の表現：“平年並み”は約2年に1回、“やや”は約4年に1回、“かなり”は約10年に1回、“はなはだ”は約20年以上に1回の出現確率を表しています。

水産試験場「最上丸」と水産課「月峯」は2月26, 28日に沿岸の水温観測を実施しました。

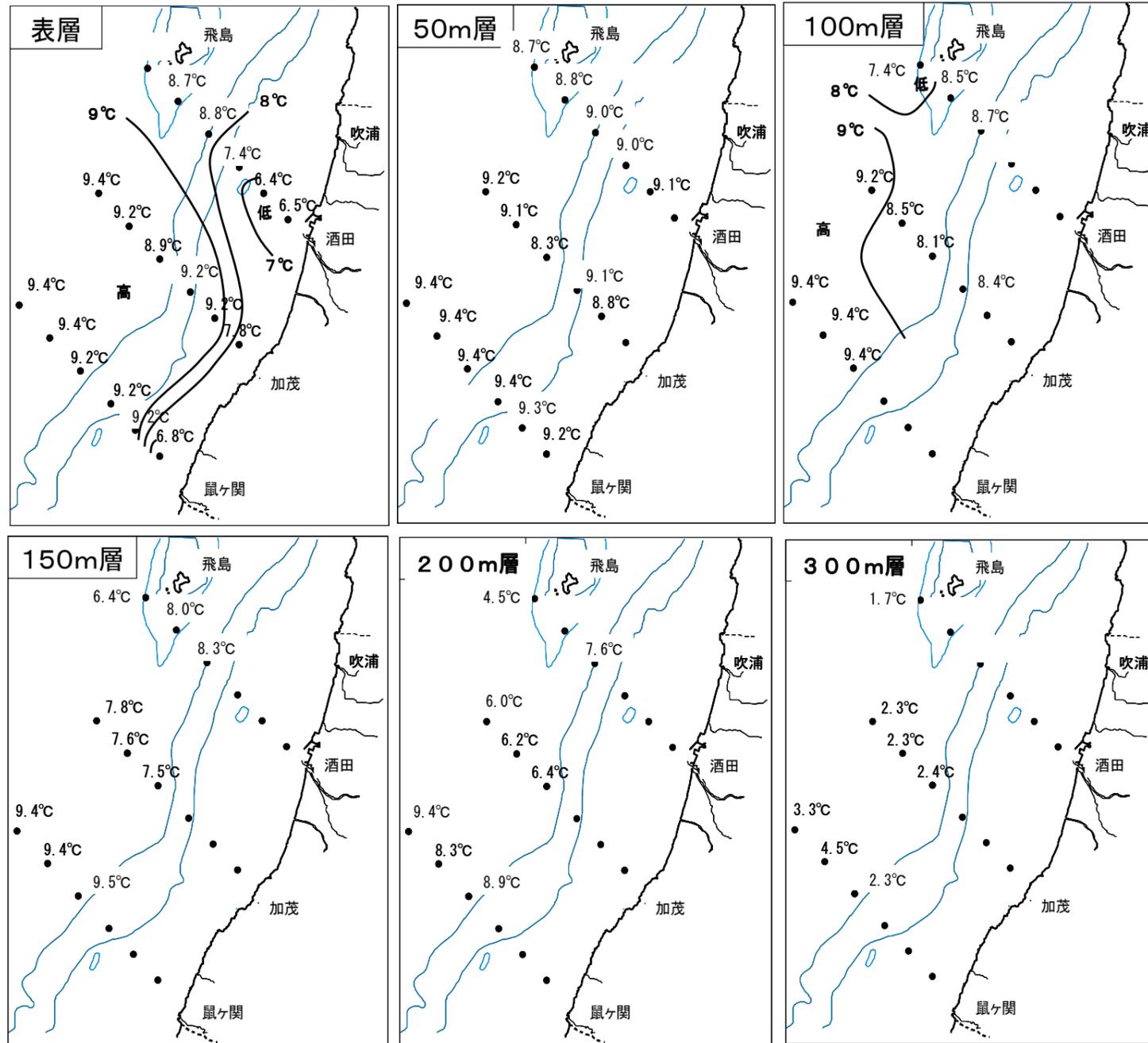
表層～50m層と150m層～200m層は「平年並み」、100m層は「平年よりやや低め」、300m層は「平年よりかなり高め」でした。

地先平均水温(2月)

単位：℃

場所	水温	前年差	平年差	評価
水産試験場(鶴岡市加茂港内)	6.6	-0.1	-1.0	やや低い
栽培漁業センター(鶴岡市三瀬地先)	8.2	+0.3	-0.7	やや低い

・地先水温：水産試験場、栽培漁業センターとも「やや低め」の水温になっています。



本年度の大型クラゲの出現及び調査結果について

○本年度も大型クラゲの出現に関する情報提供等ご協力を頂き、誠にありがとうございました。

○7～9月に黄海・東シナ海でやや高い密度の大型クラゲの出現がみられましたが、日本沿岸における大型クラゲの出現は散発的で入網個体数も少なく、漁業被害はありませんでした。

○本県沿岸における大型クラゲ出現調査結果は以下のとおりでしたので、報告します。

1 洋上調査

漁業監視調査船「月峯」により7月～翌年1月までの合計7回の目視調査を沿岸域で行ったが大型クラゲは認められなかった。
 11月5～6日に漁業試験調査船「最上丸」により沿岸一斉調査（沖合ライン4線、沿岸並行ライン3線）を行った結果、大型クラゲは魚群探知機、船上目視ともに認められなかった。

2 陸上調査

漁業者（底びき網漁業者、定置網業者、さし網漁業者等）から出現情報を収集した。8～9月は大型クラゲの入網や発見報告はなかったが、10月2日から11月30日まで入網の情報が得られた。ただし、入網数は1日に1～2個ほどであり、漁業被害はなかった。

2月の漁況

・延べ操業隻数は1,010隻で、前年比62%でした。総漁獲量は287トンで、前年比68%でした。どちらも時化が大きく影響していました。
 ・底びき網漁業の漁獲量は257トンで前年比75%でした。この時期主対象となるマダラは155トンで前年比92%でした。その他の魚種では、タイ類が前年を大きく上回りましたが、他の主要な魚種は前年を下回りました。
 ・他の漁業では、さし網漁業のヤリイカ、はえなわ漁業のマダラ、張網漁業のヤリイカが前年を上回りましたが、さし網漁業のマガレイ、たらさし網漁業のマダラ、やりいか釣漁業のヤリイカ、採貝藻漁業のアワビ、サザエ、かご漁業のタコ類が前年を下回りました。

* 前年比は平成20～24年までの平均値と比較した値です。 単位: 隻、kg

全漁業支所別漁獲量

支所	吹浦	飛鳥	酒田	加茂	由良	豊浦	温海	念珠関	計	前年比	前年比
延べ操業隻数	38	342	94	28	141	66	52	249	1,010	92%	62%
総漁獲量	30,148	14,931	52,224	919	50,706	20,201	870	116,947	286,945	79%	68%
前年比	55%	100%	60%	7%	99%	99%	57%	99%	79%		
前年比	71%	65%	65%	4%	73%	69%	43%	77%	68%		

底びき網漁業

単位: 隻、kg

支所	吹浦	酒田	加茂	由良	豊浦	念珠関	計	前年比	前年比
延べ操業隻数	24	58	4	71	26	133	316	89%	79%
タイ類	3	1,518		310	543	6,659	9,033	961%	305%
ヒラメ	66	213	109	394	201	996	1,979	141%	79%
カレイ類	370	998	240	1,933	534	1,829	5,904	102%	83%
ハタハタ	684	1,941		8,040	5,190	24,855	40,710	46%	47%
スケトウダラ	2,638	3,488		3,184	844	3,213	13,367	140%	62%
アンコウ	221	496	99	784	248	2,591	4,439	69%	56%
マダラ	20,572	34,096		29,519	10,051	60,598	154,836	105%	92%
アカエビ	331	1,169		985	201	3,302	5,988	49%	45%
タコ類	242	208		229	36	243	958	53%	33%
その他	801	2,849	13	3,736	1,630	11,092	20,121		
計	25,928	46,976	461	49,114	19,478	115,378	257,335	83%	75%
前年比	57%	57%	46%	103%	102%	100%	83%		
前年比	72%	67%	37%	71%	76%	78%	75%		

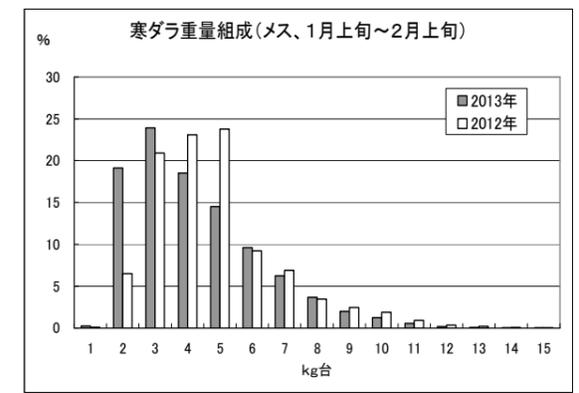
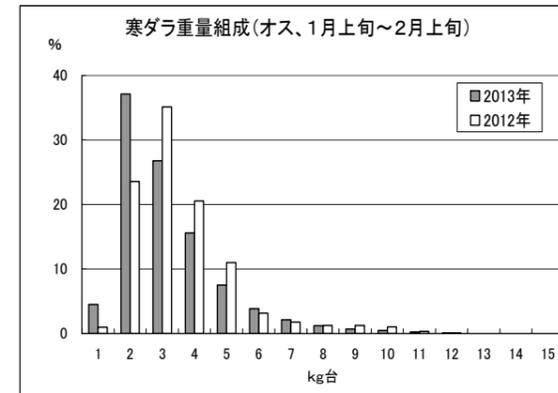
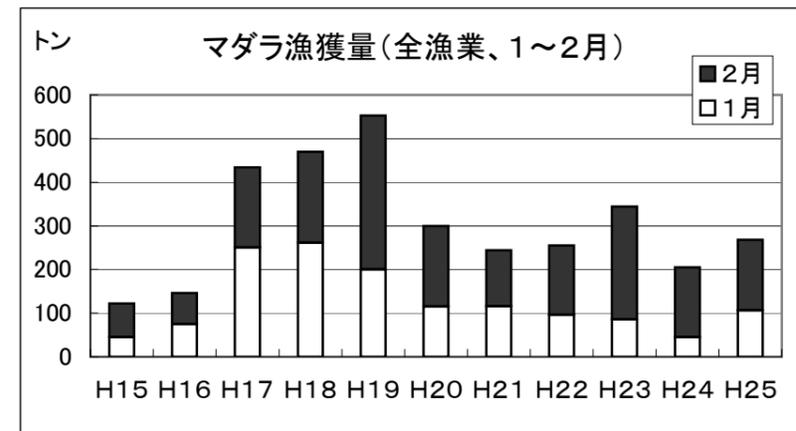
他の漁業

単位: 隻、kg

漁業種類	さし網漁業		たらさし網漁業	やりいか釣漁業	はえなわ漁業	採貝藻漁業			かご漁業	張網漁業
延べ操業隻数	102		15	43	93	267			104	16
漁獲量	2,336		5,287	386	3,733	3,714			2,949	4,579
前年比	78%		221%	250%	44%	147%			72%	45%
前年比	27%		54%	35%	25%	77%			58%	67%
主な対象魚種	マガレイ	ヤリイカ	マダラ	ヤリイカ	マダラ	アワビ	サザエ	ナマコ	タコ類	ヤリイカ
漁獲量	630	1,135	2,361	386	2,214	920	486	1,653	2,949	1,655
前年比	48%	325%	175%	250%	219%	90%	62%	258%	72%	84%
前年比	18%	111%	37%	35%	223%	66%	34%	91%	58%	159%

寒ダラ漁のまとめ

1. 水産試験場では昨年の12月に、平成25年1～2月の寒ダラについて、「前年(213トン)並で、魚体は4kg台が中心となる」と予報しました。
2. 漁獲量の実績は268トン(=1月106トン、2月162トン)で、前年比131%、過去10年比87%となりました。地区別に1隻1日当たりの漁獲量を見ると、平成21年以降継続していた県北(吹浦・酒田)と、県央(由良・豊浦)県南(鼠ヶ関)の地域間格差はほぼ解消しました。
3. 漁獲サイズは、3kg以下の割合が大きく増加し(特にオスが顕著です)、魚体は小型化していました。これは、若齢魚の割合が増加したためです。



最上丸の調査予定(3月中旬～4月上旬)

底びき網調査、海洋観測

- ・底びき網調査(アラ場、ハタハタ加入量)を行います。
- ・海洋観測を行います。